

近畿病院図書室協議会共同リポジトリ “KINTORE”

－構築までの 500 日とこれから－

藤原純子¹⁾，谷口裕美子²⁾，寺澤裕子³⁾，増田徹⁴⁾

¹⁾ 洛和会音羽病院図書室，²⁾ 八尾市立病院図書室，

³⁾ 関西労災病院図書室，⁴⁾ 藍野大学中央図書館

【概要】

114 施設の病院と大学，専門学校の図書館が加盟する近畿病院図書室協議会（以下，病図協）では，平成 26 年度より会員施設の紀要論文，学術論文などの成果物をインターネット上で無償公開する共同リポジトリの構築準備を行っている。会員の設置母体が異なる協議会での構築に向けての取り組みと，今後の計画と展望を発表する。

【背景】

病図協では，平成 20 年に開催された第 29 回医学情報サービス研究大会の DRF 主題ワークショップへの参加をきっかけに，病院発行物のリポジトリ公開の必要性を意識しはじめた。ワンパーソンライブラリーが多い病院図書館では各病院単独でのリポジトリ構築はコスト面，人員面で困難が伴う。そこで，協議会での共同リポジトリの構築について検討をすすめることにした。

【方法】

平成 26 年 1 月：第 132 回研修会事前ワークショップ（メーリングリスト）による学びの開始，運用方法の模索

2 月：第 132 回研修会「病院図書室における機関リポジトリの可能性」開催

4 月：協議会に「機関リポジトリプロジェクトチーム」設置

7 月：会員の現状・意向調査アンケート実施

9 月：第 134 回研修会「病院図書館の機能向上－図書館システムとリポジトリ」でリポジトリの実務についてより深く学ぶ

10 月：運用指針，マニュアル等の開設準備

【結果】

1 年間の検討や学びの期間を経て，平成 27 年 3 月の総会にてリポジトリ構築が承認された。5 月現在，システムの委託構築や会員に向けた実務研修会の企画及び準備を行っている。平成 28 年初旬の公開を目標に，今後コンテンツの登録や整備を行っていく予定である。これまでの取り組みを通して，著作権や学術情報流通のあり方，研究支援など様々なことを学ぶことができた。共同リポジトリはようやくスタートラインに立ったところである。これから更に広報や担当者研修を重ね，生きたリポジトリに育てていきたい。